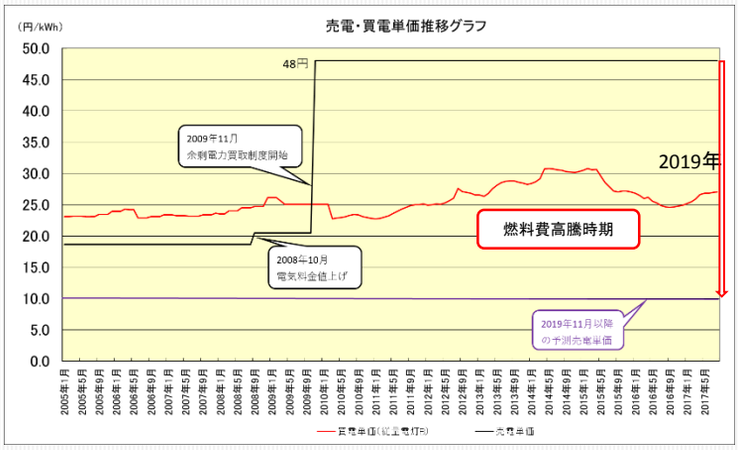
第29号
2017/10

PVかながわ ニュースレター

Report

2019年までの売電・買電単価の推移
（売る時代から使う時代へ！）



右のグラフは、ソーラーパネルを2005年以前に載せ、従量電灯Bの契約で基本料金が40A、月々の売電量が250kWh、買電量が270kWhと仮定した場合の売電・買電単価の推移を示したものです。黒い線は**売電単価**（売電料金を売電量で割った数字）で、赤い線が**買電単価**（基本料金、電力量料金、燃料費調整額、再エネ賦課金を含めた買電料金を買電量で割った数字）です。黒い線が赤い線より上ならば、売れば儲かりますから、皆さんもなるべく沢山売ることを考えてきたと思います。買電単価は燃料費調整額の影響が大きいため単純な右肩上がりではありませんが、徐々に値上がりしています。

2019年11月以降の売電単価は、あくまでも予測ですが、額の高い順に、2009年以前と同様の電力量料金と同一、電力卸価格（2017年7月は平均10.6円）、余剰電力は引き取らない場合が考えられます。最初の価格は東電に利益がないので、真ん中の価格がほぼ妥当ではないかと考え、紫の線(10円)を設定しました。

ソーラーパネルを設置した場合の利益は、次の式で表されます。

発電利益＝売電収入＋電気代削減額

今まではできるだけ多く売って**売電収入**を増やした方が利益を多くする方法でした。2019年11月以降は、売電収入は当てにならないので、売る分を**電気代削減額（自家消費分）**にまわした方が発電利益を増やす方法になります。つまり、発電量をなるべく自分の家で使うように、生活のパターンを考えると言うことです。2019年以降は、「**売る時代から使う時代へ！**」です。　（田辺　記）

世話人から

連絡事項

2017年度からの神奈川地域交流会担当理事には、佐藤次雄さんが就任されました。

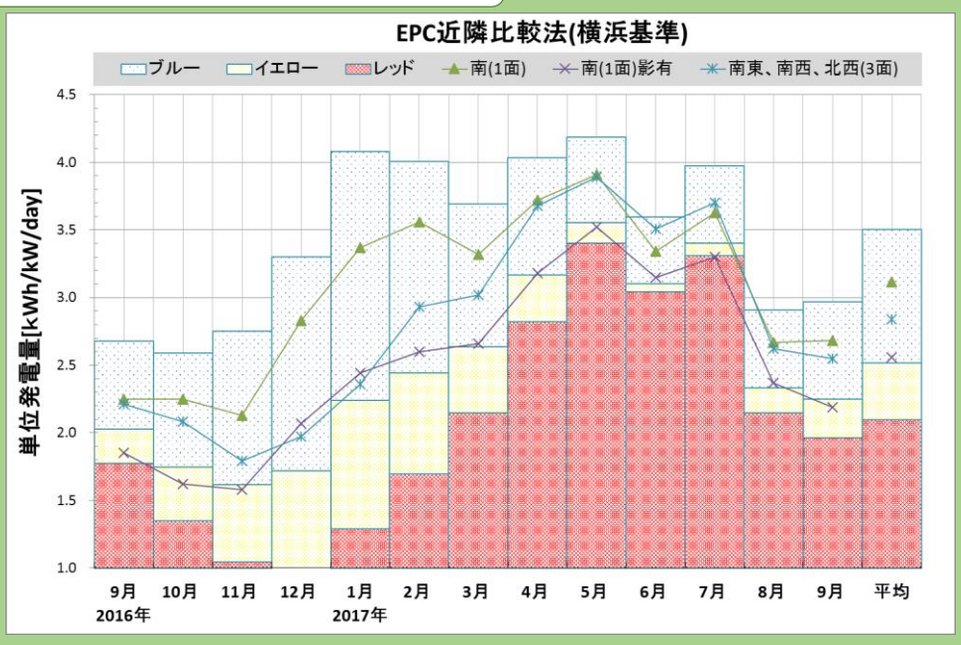
今後の予定

2017年10月15日（日）
ワークショップ第22回
「出前発電所をつくろう！」
会場：「ノクティ2」（溝の口駅）
時間：13:00～16:00

2017年10月29日（日）
「あつぎ環境フェア」
会場：厚木中央公園
時間：10:00～15:00

2017年11月11、12日（土、日）
「まなぶん祭り」
会場：ほどがや市民活動センター（アワーズ）
時間：10:00～15:00（両日共）

今月の単位発電量！



昨年の9月と比べると県内の発電量は若干良かったのでないでしょうか？気象庁によると「高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化したものの、北日本と東日本日本海側では高気圧に覆われ、月間日照時間はかなり多かった。北・東日本では、月平均気温は平年並だったが、上旬は寒気の影響で低温となった時期があった。台風第18号が13日に非常に強い勢力で先島諸島に接近、17日に九州南部に上陸、西日本を通過して本州の日本海沿岸を北上、翌日北海道に達した。北・西日本と沖縄・奄美を中心に河川の氾濫や浸水、土砂災害などの被害が発生した。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドになる場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。